

第12期  
第8回 鳥取市校区審議会

平成26年12月12日(水) 14:00  
鳥取市役所 鳥取市役所本庁 4階 第2会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議事録署名委員の選任 委員、 委員

4 報告

- (1) 第7回校区審議会審議概要について ······ P 0 1
- (2) 校区審議に関する活動報告について ······ P 0 2 ~ P 0 7
- (3) 福部地域への答申について ······ P 0 8 ~ P 1 1
- (4) 公立小中学校以外に就学している児童生徒数について ··· P 1 2
- (5) 中心市街地の小学校間連携について ······ P 1 3
- (6) 小規模校転入制度 P Rについて ······ P 1 4

5 議事

- (1) 中間まとめについて ······ 別紙 1
- (2) その他

6 その他

7 閉 会

## 鳥取市校区審議会委員（第12期）

任期：平成25年11月27日～平成27年11月26日

区分	氏名	所属、職業、住所等	12/12 出欠
学識経験者（9名）	渡部 昭男	鳥取大学名誉教授、神戸大学発達科学部教授	欠
	岩崎 憲一	自営業（山城町）	出
	渡辺 勘治郎	鳥取市自治連合会（連合会会長）	出
	片山 敬子	鳥取市小学校校長会（湖南学園校長）	欠
	有本 健一	鳥取市中学校校長会（鳥取北中学校校長）	欠
	吉澤 春樹	鳥取市小学校PTA連合会（城北小PTA会長）	出
	米原 隆生	鳥取市中学校PTA連合会（鳥取南中PTA会長）	出
	上山 弘子	会社員（福部町）	出
	神谷 正恵	行政経験者（吉岡）	出
公募（6名）	有本 喜美男	無職（富安2丁目）	出
	横西 経雄	文化団体役員（布勢）	出
	牛尾 柳一郎	無職（北園1丁目）	出
	山本 源五郎	農業（野坂）	出
	平尾 司砂	無職（桂木）	出
	谷口 好宏	農業（上原）	出
アドバイザー	倉持 裕彌	鳥取環境大学 地域イノベーション研究センター	欠
事務局	尾室 高志	教育委員会事務局長	
	神谷 康弘	教育委員会事務局次長兼教育総務課長	
	木村 正人	教育委員会事務局次長兼学校教育課長兼校区審議室長	
	石上 直彦	校区審議室 主幹兼指導主事	
	小谷 昇一	校区審議室 主幹	

## 報告1

### 第12期 第7回 鳥取市校区審議会議事概要について

1 日 時 平成26年9月24日(水) 14時00分～16時45分

2 会 場 鳥取市役所 2 序舎 5F 第1会議室

3 出席者 渡部会長、岩崎副会長、渡辺委員、片山委員、有本(健)委員、吉澤委員、米原委員、上山委員、神谷委員、有本(喜)委員、横西委員、山本委員、平尾委員、谷口委員  
事務局:尾室局長、神谷次長、木村次長、石上主幹兼指導主事、小谷主幹

#### 《概要》

##### 1 開 会

##### 2 会長あいさつ

3 議事録署名委員の選任 吉澤委員 米原委員

##### 4 報告

- (1) 第5回校区審議会議事概要について
- (2) 第6回校区審議会(福部の教育を考える会との意見交換会)の概要について
- (3) 校区審議に関する活動報告について
- (4) 「今後の学制等の在り方について(第五次提言)」(教育再生実行会議)について
- (5) 小中学校の統廃合に関する指針の見直しについて
- (6) 9月定例議会での質問と答弁について

##### 5 議事

- (1) 福部地域への答申(案)について

⇒答申は「福部地域に新たな幼小中一貫校を設置する」旨の内容とする。

⇒今日の審議会の議論を基に原案に修正を加え、正副会長として答申案を作成する。

⇒作成後に各委員に郵送し、確認を受けた後に答申を出す。(※10月の定例教育委員会の席で委員長へ提出予定)

(主な意見等)

- ・福部地域が新しい学校づくりのスタートラインに立つ意味でも、早期に答申を出すべきだろう。
- ・文末の「期待する」という表現は、ひとまかせな感じになるので工夫してはどうか。
- ・保幼との連携や5歳児の学童保育のあり方などについては、もう少し具体的な記述をすべきではないか。

- (2) 検討を要するエリアに対しての検討課題(テーマ)と提案事項について

⇒次回の校区審議会で、検討課題(テーマ)を含めた「中間まとめ」の内容をさらに議論していく。

(主な意見等)

- ・「その他エリア」という表現は適切ではないのでは。
- ・前期との議論の継続性や整合性から、小規模小学校は「学校統合」を基本とするニュアンスが必要ではないか。
- ・新市域振興ビジョンには「全校区で教育を考える会の設置」の方針が記されている。校区審としてもこのビジョンに沿い、全校区に立ち上げていく姿勢を示さなければいけない。
- ・児童生徒数の推移等のデータの提示は、慎重に考えるほうが良いのでは。

##### 6 その他の

- ・検討組織の立ち上げにあたっては、自治連合会との連携が重要だろう。
- ・付属小中学校、養護学校、青翔開智、湯梨浜学園の児童生徒数の動向は、審議会としても知っておく必要がある。

##### 7 閉 会

## 報告 2

### 校区審議に関する活動報告

No	月 日	実施時間	場所	会議名	内容等
1	H26. 9. 25 (木)	15: 30 ~ 17: 00	教育センター	定例教育委員会	校区審議会概要報告
2	H26. 9. 30 (火)	10: 00 ~ 12: 00	本庁 4 階第 3 会議室	文教経済委員会	校区審議会概要報告
3	H26. 10. 22 (金)	19: 30 ~ 22: 00	逢坂小学校	逢坂地区意見交換会	教育を考える会設立準備
4	H26. 10. 24 (金)	15: 00 ~ 17: 30	福部小学校 福部中学校	学校施設確認	施設確認
5	H26. 10. 30 (木)	13: 30 ~ 13: 45	第二庁舎 5 階 会議室	定例教育委員会	答申書提出
6	H26. 11. 17 (火)	18: 00 ~ 19: 00	福部地区公民館	福部の教育を考える会	答申と今後の進め方
7	H26. 11. 18 (水)	19: 30 ~ 21: 15	逢坂地区公民館	逢坂の教育を考える会	設立総会
8	H26. 11. 19 (木)	15: 30 ~ 17: 00	ホーリースターとっとり	定例教育委員会	答申と今後の進め方
9	H26. 12. 1 (月)	13: 30 ~ 15: 00	駅南庁舎 1 階	児童家庭課事務打合	幼稚園の進め方について
10	H26. 12. 2 (火)	15: 00 ~ 17: 00	第二庁舎 5 階 会議室	教育委員会事務打合	校区審議会事務打合
11	H26. 12. 3 (水)	11: 00 ~ 12: 00	委員会室	正副会長会	校区審議会事務打合
12	H26. 12. 10 (水)	14: 30 ~ 16: 30	福部中央公民館	福部町教育研究会	コミュニティ・スクールについて
13	H26. 12. 11 (木)	18: 00 ~ 20: 00	福部中央公民館	幼小中一貫校推進委員会事務打合	推進委員会設立準備
14	H26. 12. 12 (金)	14: 00 ~ 17: 00	本庁舎 4 階第 2 会議室	第8回校区審議会	

## 報告 2・2

# 逢坂地域の教育を考える会（仮称） 設立に向けた準備会について《概要》

- 1 日 時 平成26年10月22日（水）19時30分～21時45分  
2 会 場 逢坂小学校 校長室  
3 出席者 田中 洋二（むら協会長）、原田 信章（地区公民館長）、村上 光重（校長）、安藤 則明（学校評議員）、三澤 立（小PTA）、神谷 康弘、石上 直彦、小谷 昇一、橋本 浩之、福田 良子

### 《概要》

#### 1、開会

#### 2、挨拶

#### 2、自己紹介

#### 3、協議事項

- ・設置要綱（案）について（別紙のとおり）

⇒名称は『逢坂の教育を考える会』

⇒設置期間はH26年11月からH28年3月まで

（意見）設置期間を明記せず学校に関わるという考え方もあるが、選出された方の負担感を考えると期限を切るべき。

⇒設立総会は11月18日（予定）

⇒会員構成（※女性を含む）

（意見）役職を離れても設置期間の間は引き続き協議に参加していただく

（意見）いろいろな年代が入ったほうがいい

（意見）女性の選出をお願いする

むらづくり協議会（1）、区長会（1）、地区公民館（1）、ふれあいのまちづくり協議会（1）

学識経験者（2）※、学校（2）※、小学校PTA（2）※、保育園保護者（2）※

計12名

- ・今後のスケジュールについて

⇒設立総会（H26/11/18）

→説明資料の検討作成

→各集落で説明会開催

→アンケート案の作成と実施

→各集落で説明会開催

→意見集約と要望の取りまとめ

→要望書の提出（H28/3/31）

#### 4、その他

- ・校区審議の方針について

考える会のメンバーは多すぎてはまとまらない。10名前後が良い。

教育長の答弁から校区審議会や教育委員会のトップダウンで決まるものではないということがよくわかった。

考える会が批判の矢面に立ってはいけないので、教育委員会としてうまく立ち回ってほしい。

H25年秋以降、逢坂へのアプローチが中断していた説明責任を教育委員会は果たすべき。

⇒全市的な呼びかけは継続している。逢坂の対応は、支所と隨時、連絡調整をしている。

- ・検討組織について

既存の組織（まちづくり協議会）を活用できないものか。

まちづくり協議会で進める案件だが、組織的に弱く問題に対応できない。考える会を設立すべき。

・説明資料について

まったく状況を知らない人が多いので誤解を与えない資料作りを。

住民は今の学校活動はもちろんのこと、コミュニティースクール、ＩＣＴ整備などイメージが不足している。

統合した場合の諸条件など明示すべき（スクールバスの運行や統合により生じる経費など）

小規模校の不安についての記述はあくまでも一般論ということを説明すること

⇒資料は教育委員会や校区審議会が示すものではなく、考える会で作成すればいい。

・学校の現状説明

逢坂は小規模校であるが、懸念されている課題は解消している。資料に出ているデメリットはあくまでも一般論。

住民説明会では小規模校の不安を払しょくする説明を行いたい。

逢坂は住民全員が教師という思いで教育に取り組んでいる。コミュニティースクールと大差はない。

学校に明るい将来像が持てる情報提供を（ＩＣＴを活用した授業、隠岐でしている里親制など）

⇒考える会で求められた資料はできる限り準備する。

・PTAでおこなったアンケート

方向性を示す重要な資料といえるが、当時のPTA会長が公表しなかつたため結果はわからない。

校長として報告を受けたが、低学年では小規模校についての不満を持つ親がおおいが、高学年になるにつれ親からは「このままでいい」との声も多くなってくる。

アンケートは具体的にどうしたいとの設問もなく自由記述であったため、意見集約に向かないのでは。

⇒新たにアンケートを実施する。

・住民説明について

集落単位にきめ細かい対応が必要。子供のいない世帯も多く小学校とは疎遠なものも多い。

⇒教育委員会として参加を求められるなら集落単位の説明会にも出向く意向。

## 5、閉会

逢坂地域の教育を考える会（仮称）  
設立の会《概要》

- 1 日 時 平成26年11月18日（火）19時30分～21時10分  
2 会 場 逢坂地区公民館 視聴覚室  
3 出席者 田中 洋二（むら協会長）、原田 信章（地区公民館長）、村上 光重（校長）、竹田 正博（区長会長）、安藤 則明（学校評議員）、角田 勝徳（保育保護者）、三澤 立（小PTA）、矢部こず枝（小PTA）、田中千春（中PTA）、加山俊則（ふれあいのまちづくり会長）、神谷 康弘、石上 直彦、小谷 昇一、橋本 浩之、福田 良子

—————《概要》—————

1、開会

2、挨拶

2、自己紹介

3、協議事項

(1) 設置要綱(案)について（別紙のとおり）

＜目的＞

- ・1条にある緊急に対策を検討すべきとはどういうことなのか。  
⇒逢坂小学校は、平成25年の校区審議会「中間とりまとめ」において、学校のあり方について検討が急がれる小規模小学校であると示されたことについての説明を行う。

＜設置期間＞

- ・期間は平成28年3月31日までにしないといけないのか。  
⇒目的が達成できない場合は必要に応じて継続して設置するが、メンバーの交代等を考えると、なるべく短期間で行いたい。

＜構成＞

- ・もっと女性に入ってもらった方がよいのではないか。  
⇒保育園保護者にもう1人女性に入っていただくように依頼し、委員は12名で構成する。

＜会長及び副会長＞

- ・女性が入っていただく方がよいので、副会長を男性1名、女性1名の2名とする。

(2) 役員について

- 会長 田中 洋二（むらづくり協議会会長）  
副会長 安藤 則明（学校評議員）、矢部こず枝（小学校PTA副会長）

(3) 今後の取組について

＜決定事項＞

- ・住民説明会を行う前に12人の委員で学習を行う。→校区審議室は資料提供を行う。
- ・小規模校や統合した学校の視察を検討する。
- ・現在の学校の状況等を説明し、アンケートを実施する。
- ・アンケートの結果を尊重し、それを基に考える会で検討する。

＜意見等＞

- ・住民がよくわからないままアンケートをとってもよくないので、現在の状況を住民に周知する必要がある。
- ・アンケートのとり方で結果は違ってくるので、設問等をしっかり考える必要がある。
- ・他地域のアンケートを収集し参考したい。

- ・現在の学校の状況や、逢坂小学校出身児童の中学校での様子を把握したい。
- ・保護者の意見を参考にしなければならないのではないか。
- ・行政は、市街地（旧市内）でも学校再編に取り組んでほしい。新市ばかりで不公平感を感じる。

<今後のスケジュール>

- ・次回は1月中旬

#### 4. 閉会

## 報告 2・4

### 第7回福部の教育を考える会 《概要》

1 日 時 平成26年11月17日（月） 18時30分～19時45分

2 会 場 福部町中央公民館 会議室

3 出席者 福部の教育を考える会、学校教育課校区審議室

#### 《概要》

1 開 会

2 挨 捶

3 協議事項

#### (1) 報 告

○要望書の内容確認と答申までの経過説明

○鳥取市校区審議会の答申の概要について

・概ね要望書のとおりであり、さらに小規模校転入制度の導入等も含んでいる点が評価された。

#### (2) 今後の取組について

○提案事項

・福部の教育を考える会と学校・園の関係者で「幼小中一貫校推進委員会」を立ち上げ、開校に向けての検討を行う。⇒了承

・推進委員会組織図について（案）（別紙：資料3のとおり）

・小中一貫校について ※今後、推進委員会で協議する際の試案

#### (3) 意見交換等

○推進委員会の委員には、研究主任ではなく、教務主任が入るようにする。

○各部会に保護者代表が入った方がよいのでは。⇒各部会に保護者代表2名が入る。

○教育課程部会には、地域の方は入っていただかなくてもよいのでは。

⇒幼小中一貫教育ビジョン、めざす子ども像の策定、一貫校のかたちなどについては、地域の代表も入って一緒に考えていくべきである。

○湖南学園は、推進委員会が立ち上がって何年で開校したのか。

⇒2年間かけて検討・準備をし、隣接型一貫校として開校した。

○ランチルーム棟が使えないのであれば、景観もよくないので取り壊してほしい。

○推進委員会の運営に関して、予算面で教育委員会から支援してもらえるのか。

⇒個別具体的に協議させていただきたいが、できる限りの支援を行いたい。

○新しく魅力ある学校づくりを地域みんなで進めていきたい。開校までに何年もかけるのではなく、速やかにできることから行っていきたい。

○第1回推進委員会は12月17日に行う。

4 閉 会

## 報告 3

### 福部地域への答申について

平成26年10月30日、市役所第2庁舎5階会議室において岩崎副会長が教育委員長に対し答申書を提出されました。

記



鳥取市校区審議会  
(渡部昭男会長)は30日、同市福部町の福部中学校と福部小学校、福部幼稚園の年長(5歳児)を統合した10年間の幼小中一貫校を設置するよう市教委(柴山宣慶委員長)に答申した。市教委と地元住民らが協議を始め、年度内に具体的な方向性を出す。実現すれば県内初となる。

答申では、「すみやかかつ適切な時期」に会設置し、地元住民で構成する運営協議会が学校運営に携わる「鳥取スクール」に指定するよう求めた。同町では、少子化に伴う福部中の統廃合に危機感を抱いた住民が2008年から小中学の再編を検討。ことし6月、住民でつくる

2014.10.31 はけぞり

## 福部に幼小中一貫校

### 鳥取市校区審議会が設置答申

答申では、「福部の教育を考える会」(南部敏会長)が同町では合併前の制度を継続し、就学前教育として5歳児は幼稚園に1年間通つてほしい」と話した。深沢義彦市長と木下法廣教育長に幼小中一貫校設置の要望書を提出した。

南部会長は答申について「ほぼ要望通りの内容満足。新設校には語学や理数系の教育に力を入れ、農業体験など田舎の良さも加えてほしい」と話した。同町では合併前の制度を継続し、就学前教育として5歳児は幼稚園に1年間通つてほしい」とモデルケースに発展することを期待。柴山委員長は「実現に向けて前向きに検討したい」と話している。

## 福部に幼小中一貫校

### 市教委審答申 地域と調整、具体化へ

鳥取市福部町の住民組織「福部の教育を考える会」(会長・南部敏福部町区長会長)が6月に要望していた県内初の幼小中一貫校の設置について、市教委の諮問機関の校区審議会(渡部昭男鳥取大名会)は30日、「10年を見通した幼小中一貫校」と、地域が求め

る学校作りを推進する会や地域審議会で開かれた答申した。答申を受けた柴山委員長は「地域と子供を守ることになる。実現に向けて最大限努めたところだ」と話す。南部会長は「地域と子供を守ることになる。実現に向けて最大限努めたところだ」と話す。南部会長も「要望通りで満足している」と喜んだ。今後、市教委が地域と調整して具体的な形態を決める。

【川瀬慎一朗】

# 福部に幼小中一貫校を

鳥取市校区審答申 県内初、市教委前向き

鳥取市校区審議会（渡部昭男会長）は30日、少子化が進む福部地区に「幼小中一貫校」を新設するよう、市教育委員会の柴山宣慶・教育委員長に答申した。実現すれば県内では初めて。答申では「一貫校の設置は速やかで適切な時期に」としており、市教委は今後、保護者や住民らと協議を怠ぐ。

答申では、小学校と中学校が隣接し、運動会などで幼・小・中の連携が進んでいる現状を踏まえ、福部小、福部中を統合し、福部幼稚園の5歳児の年代を加え、10年間を見通した一貫教育校にするとした。また、校外から希望者を受け入れる「小規模校転入制度」を

導入することとし、児童・生徒の増加も見込めるとしている。30日現在の児童・生徒数は福部小が148人、福部中が86人で、このままいけば近隣の小・中学校との統廃合の可能性もある。地区

では「将来、福部から学校がなくなるのでは」との危機感が強く、同審議会が、機敏なカリキュラムづくりが可能になると云う。

答申を受けた柴山・教育委員長は「地域を守り、子供たちのためにもなる教育のため、前向きに検討したい」としている。福部の教育を考える会の南部敏会長は、「農業学習など田舎ならではの特色も出していく」と期待感を示した。

「などが解消されると、英語教育を前倒しするなど柔軟なカリキュラムづくりが可能になる」と云う。

答申を受けた柴山・教育委員長は「地域を守り、子供たちのためにもなる教育のため、前向きに検討したい」としている。

## 幼小中一貫校 福部に設置へ

鳥取市校区審議会答申

鳥取市校区審議会（渡部昭男会長）は30日、同市福部町に幼稚園の年長から小中学校まで10年制の一貫校を設置することを認め、市教委に答申した。町内の住民らでつくる「福部の教育を考える会」（南部敏会長）が求め、今年6月、深沢義彦市長と木下法広教育長に要望書を提出していた。幼稚園を含めた一貫校は県内では初めて。

答申には、速やか、かつ適切な時期に設置することや、地域振興に留意することなど5項目が付記された。市教委は今後、実現に向けた調整に入る。

審議会の岩崎憲一副会長は取材に対し、「福部町では以前から、5歳児の1年間は保育園から幼稚園に切り替えて教育してきたので移行しやすく、要望には妥当性があった」と話した。

(村井七緒子)

# (写)

平成26年10月30日

鳥取市教育委員会  
委員長 柴山 宣慶 様

鳥取市校区審議会  
会長 渡部 昭男

## 福部地域の学校のあり方について（答申）

鳥取市校区審議会（第12期）は、平成25年11月27日に第1回の審議会を開催して以降、諮問事項である「鳥取市立小・中学校の学校配置及び校区の設定について」に関する審議を進めてきた。

この審議の過程において、平成26年6月5日に「福部の教育を考える会」より要望書が提出されことを受けて、現地での視察や意見交換等を行いながら慎重に審議を重ねた結果、福部地域の学校のあり方について次のとおり答申する。

### 記

1. 福部地域に、新たな幼小中一貫校を設置する。

#### [付記]

- (1) 福部小学校、福部中学校を統合して、福部幼稚園を加えた形の新たな幼小中一貫校を設置する。
- (2) 一貫校の設置は、すみやかかつ適切な時期に実施する。
- (3) 「鳥取市版コミュニティ・スクール（地域創造学校）」の指定を行う。
- (4) 「小規模校転入制度」を導入する。
- (5) 教育情報環境の整備を進める。
- (6) 地域振興にも留意する。

(説明)

- (1) 福部町では、小学校と中学校が隣接していること、また以前から5歳児の1年間は幼稚園で教育を受け、幼小中が連携した教育活動が進められてきていた。それらのことをふまえ、10年間を見通した幼小中一貫校とし、地域が求める学校づくりを推進する。
- (2) 開設時期を含め、施設の活用の仕方、教育課程の編成内容等、幼小中一貫校の具体的な姿については、今後、鳥取市教育委員会と「福部の教育を考える会」「地域審議会（地域振興会議）」など地域住民がすみやかに協議を進めることが必要である。加えて、保・幼連携や学童保育のあり方について、関係機関、関係者との協議を進めることも必要である。
- (3) 福部町では、将来の学校のあり方について検討する「福部の教育を考える会」を早い時期から立ち上げるなど、教育への関心が高く、学校への協力も熱心に行われてきた。「鳥取市版コミュニティ・スクール」の指定を行い、学校運営協議会が学校運営に携わることで、学校と地域が一体となることがさらに進み、より魅力ある学校づくりが推進できる。
- (4) 小規模校転入制度を導入することで、校区外からの児童生徒の転入が見込まれ、児童生徒の交友関係の多様化や活動可能な部活動の選択肢が広がるなどの効果が得られる。
- (5) 教育情報環境を整備することで、とりわけ中学校年齢の生徒にあっては、他校の中学生とインターネットを通じて交流でき、視野を広げることに繋がる。
- (6) 地域振興に関しても、「新市域振興ビジョン」を踏まえて留意する必要がある。

報告書

鳥取市公立小中学校以外に就学している児童生徒数

年度	学校名 区分	鳥取 盲学校	鳥取 聾学校	鳥取 養護学校	白毛 養護学校	鳥大付属 特別支援 学校	倉吉 養護学校	皆生 養護学校	鳥大付属 学校	湯梨浜 学園	青翔開智 中学校	その他	計
H22年度	小学部	3	5	23	34	13	1	0	444	0	0	12	535
	中学部	2	1	11	33	12	0	0	405	13	0	1	478
	小計	5	6	34	67	25	1	0	849	13	0	13	1,013
H23年度	小学部	2	3	22	34	11	1	0	445	0	0	11	529
	中学部	3	3	16	28	10	0	0	409	11	0	6	486
	小計	5	6	38	62	21	1	0	854	11	0	17	1,015
H24年度	小学部	3	2	26	36	9	1	0	430	0	0	8	515
	中学部	2	3	17	25	10	0	0	408	9	0	11	485
	小計	5	5	43	61	19	1	0	838	9	0	19	1,000
H25年度	小学部	3	3	21	37	7	1	0	421	0	0	7	500
	中学部	1	3	20	29	15	1	0	405	8	0	13	495
	小計	4	6	41	66	22	2	0	826	8	0	20	995
H26年度	小学部	3	1	25	35	8	1	0	419	0	0	7	499
	中学部	1	1	14	32	12	0	0	384	6	46	14	510
	小計	4	2	39	67	20	1	0	803	6	46	21	1,009

※各年度の5月1日現在の数値を参考とした

※学年簿により抽出

※青翔開智中学校はH26年4月に開校

## 中心市街地の小学校連携について

	学年	相手小学校名	内容
遷喬小	3年	北中学校区小学校 (城北、遷喬)	北中校区3年生交流会 9月18日(木) 9:30~10:30 会場:久松小学校 (1)全員合唱(2)各学校の紹介(3)仲良くなるためのゲーム
	6年	北中学校区小学校 (城北、遷喬)	北中校区6年生1日体験入学 9月19日(金) 会場:北中学校 (1)生徒会の説明(2)仲良くなるための名刺交換とゲーム(3)授業体験2コマ(4)弁当(5)掃除(6)部活見学
	6年	鹿野小学校	城下町交流…年に2回交流学習を行う(9/22久松小、12/5鹿野小) 学習したことを発表、久松山登山・案内 等
久松小	6年	北中学校区小学校 (城北、遷喬)	北中校区6年生1日体験入学 9月19日(金) 会場:北中学校 (1)生徒会の説明(2)仲良くなるための名刺交換とゲーム(3)授業体験2コマ(4)弁当(5)掃除(6)部活見学
	3年	北中学校区小学校 (城北、遷喬)	北中校区3年生交流会 9月18日(木) 9:30~10:30 会場:久松小学校 (1)全員合唱(2)各学校の紹介(3)仲良くなるためのゲーム
	1~5年	日進・醇風・富桑・明徳・富桑小・美保南小・日進小	特別支援学級在籍児童の6校交流会 ○1回目は、富桑小学校で、なかよし運動会に向けて6校児童でチームの旗を作成したり、リハーサルや練習を行った。 ○2回目は、会場未定だが、卒業を祝う会を実施する予定。
明徳・醇風・富桑小	6年	富桑小・明徳小・醇風小	○中学校の体験入学の機会を利用し、西中校区の3小学校の6年生が一緒に仲間づくりの学習をする。(予定)
	5年	富桑小・明徳小・醇風小	○中学校の生徒会立合演説会に参加し、中学校の自治活動に触れ、次年度の児童会活動につなげる。(予定)
	5・6年	富桑小・明徳小・醇風小	○特色ある中学校区創造事業の一環としてフォーラムを開催し、西中校区の3小学校の5・6年が中学生と一緒に夢を叶える講演会と合唱に参加した。
富桑小・明徳小	全学年	富桑小・明徳小	○毎年、芸術鑑賞会を合同で実施している。 (隔年で、会場を交替…本年度は富桑小)

## 報告 6

### 小規模校転入制度 PRについて

小規模小学校のあり方を考えていくうえで、魅力ある学校づくりを進めて校区外からの児童を受け入れる小規模校転入制度は、今後的小規模校を審議していく重要な判断材料となる。

しかし、住民への周知不足であったため当制度が有効に機能しているとは言い難い。このたび来年度募集が12月1日から始まったことを受け、広報を強化しPRに努めていることを報告する。

#### 記

##### 広報事業

従来（H18年～H25年）	今期（H26年度）
ポスター配布 250部	ポスター配布 250部
チラシ配布 1,000部	チラシ配布 1,000部
ラジオCM「FM鳥取」 12/2～2/28 <u>15回</u>	ラジオCM「FM鳥取」 12/2～2/24 <u>14回</u>
ピヨンピヨン文字放送 12/2～2/28 隨時	ピヨンピヨン文字放送 12/2～2/27 隨時
市報11月号 <u>1/3P</u>	市報（特集記事）12月号 <u>2P</u>
ラジオ出演「FM鳥取」 1/11 1回	ラジオ出演「FM鳥取」 12/20 1回
新 PR動画「小規模校転入制度」 12月中旬	
新 PR動画「保護者に聞いてみました」 12月中旬	

※ 二重線部分が従来との変更点を表す。

## 検討をするエリアに対しての検討課題（テーマ）と提案事項について

今期（第12期）の校区審議会では検討を要するエリアごとに具体的な議論を進めてきました。審議の中間まとめとして、各エリアの検討課題（テーマ）を以下に提示します。

### ◇議論が必要な学校区

エリア	懸念される項目	基準 ※1	検討課題	想定される選択肢
全中学校エリア	目指す子ども像 「ふるさとを思い 志をもつ子」の実現	一	・魅力ある学校づくり、地域とともにある学校づくりを推進するにはどうすればいいか。	・検討組織の立ち上げ ・地域創造学校（鳥取市版コミュニティ・スクール）の推進 ・義務教育学校[仮称]への移行
◇早急な議論が必要な学校区				
エリア	懸念される項目	基準 ※1	検討課題	想定される選択肢
鹿野中学校エリア (鹿野小を含む)	小規模化に伴う教育効果	I-1	・鹿野中学校区として小規模化に伴う懸念される教育効果をどのように解決するのか。	・小規模校転入制度の導入 ・西鶴地域の中連携（集合授業）の促進 ・教育情報環境の整備
江山中学校エリア (神戸小、美和小を含む)	小規模化に伴う教育効果	I-1	・江山中学校区として小規模化に伴う懸念される教育効果をどのように解決するのか。	・ふるさと教育カリキュラムの導入 ・検討組織の立ち上げ ・小規模校転入制度の導入 ・初等部プロック分離型小中一貫校 ・中連携（集合授業） ・教育情報環境の整備
南中学校エリア (美保小を含む)	大規模化に伴う教育効果 教室数の不足など施設面	I-2	・教室数の不足など施設面の課題をどのように解消するのか。	・検討組織の立ち上げ ・学校の分離新設(街衝化調整区域での学校建設にかかる調整) ・校舎増改築 ・校区割の変更
千代川以西エリア (坂北小、大正小、世紀小)	通学上の安全面 適正配量に関する項目 大規模化に伴う教育効果	I-2 III-1 III-2	・現在の学校より近くに別の学校があること、通学路に危険（交通量の多い道路、橋）があるため、学校生活に支障をきたしている点をどのように解消するのか。 ・教室数の不足など施設面の課題をどのように解消するのか。	・検討組織の立ち上げ ・小連携（集合授業）の強化 ・通学区域の彈力的運用 ・学校選択可能な調整区域の設定 ・中学校選択制
中心市街地エリア (久松小、醇風小、遷喬小、日進小、富森小、明徳小、美保小)	適正配置に関する項目	I-1 III-1 III-4 III-5	・中心市街地の空洞化が指摘されている中、狭い範囲に学校があるため将来的に学校の小規模化が懸念されるが、どのように解決するのか。	・検討組織の立ち上げ ・小連携（集合授業）の強化 ・通学区域の彈力的運用 ・隣接校でのゆるやかな学校選択制の導入 ・複数校区での管理運営部門の統合（キャンパス方式）
小規模小学校エリア (東郷小、明治小、西郷小、瑞穂小、逢坂小)	小規模化に伴う教育効果	I-1	・各小学校区として小規模化に伴う懸念される教育効果をどのように解決するのか。	・魅力ある学校づくりへの取り組み ・検討組織の立ち上げ ・学校間交流学習等の強化

I 学校規範に 属する項目	5学級以下 (将来予測も含む)	I-1 小規模化により教育上の課題がある場合
	25学級以上 (将来予測も含む)	I-2 大規模化により教育上の課題がある場合 ※教室数の不足など施設面の課題も含む
II 通常に関する項目	II-1 通学距離・時間が長い	
	II-2 通学手段の検討を要する	
III 適正配置の関する項目	III-1 現在の学校より近くに別の学校があり、保護者などから要望や苦情がある	
	III-2 通学路に危険がある(交通事故の多い道路、橋、踏切等)	
	III-3 校区と自治会が整合しない地域	
	III-4 中心街地の貸し、賃借に学校がある	
	III-5 その地区から要望がある	

(参考) 学校規模の違いによる想定される効果と課題 『※文部科学省資料「学校規模によるメリット・デメリット」から抜粋』

区分	大規模化	小規模化
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会などの学校行事などに活気が生じやすい。</li> <li>・グループ学習や習熟度別学習など多様な学習・指導形態をとりやすい。</li> <li>・集団の中で多様な考えに触れることがができる。</li> <li>・交友関係が広がり、切磋琢磨する機運が出てくる。</li> <li>・クラス替えがしやすいことから、豊かな人間関係の形成が図られる。</li> <li>・教員数が多く、教科・経験などバランスのとれた教職員配置ができる。</li> <li>・様々な種類の部活動の設置が可能になり、選択の幅が広がる。</li> <li>・PTA活動等において、役割分担等により、保護者の負担を分散しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。</li> <li>・部活動や学校行事等で一人ひとりの個別の活動機会が設定しやすい。</li> <li>・児童相互の人間関係が深まりやすく、安心感がある。</li> <li>・異年齢の交流が生まれやすいため、思いやりの気持ちが育ちやすい。</li> <li>・特別教室や体育施設の確保が容易となる。</li> <li>・教材・教具の一人あたりの割り当てが多く、十分に活用した指導がしやすい。</li> <li>・教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。</li> <li>・保護者や地域との連携が図りやすい。</li> </ul>
懸念される課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。</li> <li>・学校行事等において、児童生徒個別の活動機会を設定しにくく。</li> <li>・男児生徒が多すぎるため、かえって交友関係が希薄になりやすい。</li> <li>・個々の習熟度や個性・特性に対応した指導がしにくい。</li> <li>・特別教室や体育館等の施設・設備の使用に制約が生じる場合がある。</li> <li>・活動に無関心な保護者ができやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で多様な考えに触れる機会や学び合いの機会が少なくなりやすい。</li> <li>・人間関係が固定化されやすく、切磋琢磨する機運が生まれにくく。</li> <li>・集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる。</li> <li>・グループ活動や習熟度別の学習など多様な学習形態をとりにくく。</li> <li>・教員一人に複数の校務分掌が集中しやすくなる。</li> <li>・PTA活動等において、保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。</li> </ul>

## 児童生徒数の推移(エリア別)

①鹿野中学校区及び西部地域エリアの児童生徒数の推移

区分	学校名	平成26年度		平成32年度		平成38年度	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数
小学校	鹿野小	173名	8学級	144名	8学級		
中学校	鹿野中	77名	3学級	82名	4学級	67名	3学級
中学校	気高中	232名	9学級	183名	6学級	193名	7学級
中学校	青谷中	151名	6学級	121名	6学級	87名	4学級

②江山中学校区エリアの児童生徒数の推移

区分	学校名	平成26年度		平成32年度		平成38年度	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数
小学校	神戸小	30名	4学級	20名	4学級		
小学校	美和	159名	6学級	132名	6学級		
中学校	江山中	92名	4学級	106名	5学級	80名	3学級

③南中学校区エリアの児童生徒数の推移

区分	学校名	平成26年度		平成32年度		平成38年度	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数
小学校	日進小	252名	12学級	320名	12学級		
小学校	美保小	615名	22学級	739名	25学級		
小学校	倉田小	105名	6学級	130名	6学級		
小学校	美保南	571名	19学級	616名	21学級		
中学校	南中	684名	21学級	819名	25学級	914名	28学級

④千代川以西エリアの児童生徒数の推移

区分	学校名	平成26年度		平成32年度		平成38年度	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数
小学校	城北小	595名	21学級	710名	24学級		
小学校	大正小	154名	6学級	155名	7学級		
小学校	世紀小	393名	13学級	452名	17学級		

⑤中心市街地エリアの児童生徒数の推移

区分	学校名	平成26年度		平成32年度		平成38年度	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数
小学校	久松小	314名	12学級	245名	11学級		
小学校	醇風小	307名	12学級	228名	10学級		
小学校	遷喬小	118名	6学級	84名	6学級		
小学校	日進小	252名	12学級	320名	12学級		
小学校	富柔小	127名	6学級	166名	8学級		
小学校	明徳小	156名	7学級	159名	7学級		
小学校	美保小	615名	22学級	739名	25学級		

⑥小規模小学校エリアの児童数の推移

区分	学校名	平成26年度		平成32年度		平成38年度	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数
小学校	東郷小	31名	4学級	22名	4学級		
小学校	明治小	31名	4学級	19名	3学級		
小学校	西郷小	52名	5学級	38名	4学級		
小学校	瑞穂小	38名	4学級	44名	5学級		
小学校	逢坂小	43名	5学級	25名	4学級		

※  は空き教室が残りたくない

※  は教室不足で児童生徒が収容できない

○学級数の設定について

平成32年度、38年度の児童生徒数は平成26年5月1日時点の推計です。  
また、学級数は、次のとおりとします（実際の学級数と異なる場合があります）。

- (1) 学校規模を示すための資料であるため、特別支援学級は学級数に加えません（児童生徒数には含みます）。
- (2) 鳥取県と各市町村の協力で行われている少人数学級に基づき、下記の通りで算出しています。
  - 小学校 …… 1、2年は30人定員、3～6年は35人定員
  - 中学校 …… 1年は33人定員、2、3年は35人定員
- (3) 本市の「複式学級解消事業(小学校)」が実施されている学校も含め、県の学級編成基準により下記の方法で計算しています。
  - ・複式学級は1年を含まない2の連続する学年の児童数の合計が15名以下の場合に設置。
  - ・1年を含む複式学級、および飛び複式学級は設置しない。